

「自画像」－自分を見つめる

千葉県立千葉西高等学校 美術 武藤敦子

顔なんか描けないと思っている生徒を減らす導入～描き始め

目標：鏡に映った自分を見つめ、じっくりと観察して描く。

特徴を捉え、内面が滲み出るような作品を目指す。

◎まずは気持ちから

「顔なんて難しくて描けない」という気持ちを軽くし、描ける自信を持って制作入らせたい。

練習1 特に指示せず、鏡をみて自由に自画像を描いてみる。

- ・輪郭を描き、髪の毛までは描けるが、目鼻が描けない。
- ・じっくりと観察といっても何をどう観察するかわからない。

練習2 最も特徴がある部分（目とその周辺）だけを描いてみる。

1. 目を片方だけ、できるだけそっくりに描く。顔のパーツだと思わず、立体感など考えず、ただ曲線をそっくりに写しとるような気持ちで描く。目尻や目頭の部分は特によく見て描く。
2. 目との位置関係や長さをくらべて、眉を描く。毛のように描く。
3. 目一つ分の幅をあけた位置に、もう片方の目を描く。

→ほとんどの生徒が目とその周辺だけで自分だとわかるように描ける。

自画像を描く上で最も難しい部分が描けたことが自信になる。苦手感を無くしてから制作に入ることができる。

キャンバスに描き始める。

最も特徴のある部分（目とその周辺）から描く。目から描き、眉、鼻、顎と描き進め、髪や輪郭、体はあとで。

◎描き始めの手順を指定することで、顔の内部がいつまでたっても描けずに「進まないことがなくなる。部分にこだわって描くため、全体で見るとプロポーシオンがおかしかったりもするが、自画像はデッサンではない。上手、下手にかかわらず、特徴を捉えているので本人に似ており味のある作品になる。

描けないという不安が減る分気が楽になり、その後も余裕をもって描きこみ、制作を進めることができる。